

課題分析	授業改善推進プラン
<p>1 知識・技能 製作の条件やねらいを理解すること、より美しい配色を生むための混色と着色の技術、自分のアイデアに沿った形を描くための用具の使い方について、大半の生徒が未熟である。</p> <p>2 思考・判断・表現 人数分の発想やアイデア、取り組み方、表現があっていることを理解させる。同時に独創性や個性、相互理解の大切さを繰り返し提唱する。 情報飽和の時代にありながらも芸術作品において、作者の意図を感じ取る機会が少ない。</p> <p>3 主体的に学習に取り組む態度 始めは小学校の図画工作との違いに戸惑いもあり、授業規律が浸透していなかった。できるだけ早く教科の特性や学習目標を理解させ、授業に臨む姿勢を定着させる必要がある。ただ例年以上に表現活動が好きな生徒が多く、意欲がとても高かった。小学校の先生に感謝している。</p>	<p>1 知識・技能 <u>用具の使い方や利用、応用法を実演し、数多くの参考作品を示していく。自宅で調べたり、制作できる課題を出し、添削、試行錯誤することを重ね、技術向上を目指すとともに美術への知識を深めさせる。</u></p> <p>2 思考・判断・表現 教科の特徴が表現や答えが一つ出ないことを説き、<u>横並びの机配置の中で、身近な参考作品から、互いの良さや、表現の多様化を理解させる。</u> 自分の感想をワークシート等に表現させる機会を増やす。それらの掲示などで他者の感じ方を共有させる。</p> <p>3 主体的に学習に取り組む態度 実技教科は「遊び」ではなく、<u>心豊かな自己表現活動であることを製作段階で具体的に提示することで充実させる。</u>やることを理解すると意欲が増すので、時折、至近距離で実演してみせることで自分に置きかえやすくする。いずれにせよ<u>集中力やていねいさが作品の進度と質を上げることに繋がるので、頻りに参考事例を電子黒板で示す。</u></p>